

杉並区教育委員会御中

平成 23 年 5 月
和泉グリーンプロジェクト

新泉・和泉地区 小中一貫教育校における校庭芝生のあり方について 基本設計の検討作業に向けて

1. はじめに

表題につきましては昨年 11 月に区教育委員会との懇談の機会をいただき、和泉グリーンプロジェクト（以下、和泉GP）としての意見を述べさせていただきました。その後おこなわれた新泉・和泉地区 小中一貫教育校（以下、一貫校）の業者選定の実施要領には「エコスクール化」が明記されたとはいえ、プロポーザルにおける校庭芝生への言及は参加各社とも限定的であり、和泉GPでは、一貫校における適切な芝生化の実現に一抹の不安を感じています。

今般の設計業者の決定を受けて、今後、一貫校の設計の具体化が進むものと拝察します。ランドデザインが決定しようとしているこのタイミングに、設計業者を含む関係各位に、あらためて校庭芝生の効用を認識していただくとともに、芝生化を考える際のフレームワークを提供することを目的にこの文書を作成しました。

2. 校庭芝生の効用について

和泉GPでは和泉小学校での経験を通じて、校庭芝生化には以下のような効用があるものと考えます。一貫校の設計に際しては、校庭芝生を単なる設備としてではなく多様な付加価値と可能性をもったものとしてとらえることを提案します。

(1)教育環境面での効用

- ・学校施設の緑化（地表温度上昇の抑制、砂ぼこり防止）
- ・安全な運動環境の提供（ころんでも痛くない、擦過傷の回避）
- ・全天候型施設（雨天後でもすぐに使用できる、冬場のぬかるみ回避）

(2)教育課程における効用

- ・環境教育の実施（環境タイムでの体験的学習など）
- ・健康づくり（目や呼吸器の疾病の抑制、低い欠席率）、体力づくり
- ・情操面での効果

(3)学校経営／地域活性化面での効用

- ・学校の魅力度アップによる児童数の拡大
- ・地域との関係づくりの求心力として機能

一方、芝生化には以下のようなデメリットがあることも事実ですが、総合的にみてそれを大きく上回るメリットがあると考えています。さらに、たとえば養生期間を想定して代わりの運動スペースを準備するなど、デメリットへの対応を踏まえた設計を行うことにより、その大幅な軽減が可能であると考え

ます。

- ・種まき後の養生期間（春休み：1週間～10日間、10月：約1ヶ月）

ただし、芝生校庭は、降雨・降雪時も雨や雪が止めば直後から利用が可能であることであることから、実質的に利用できない期間は非芝生校庭と大差がないと考えられる

- ・維持管理の負担（専門知識・技術、マンパワー、費用）
- ・病害虫による劣化の可能性
- ・繰り返しの目砂による段差の発生

3. 一貫校における校庭芝生化 検討のフレームワーク

一貫校の校庭芝生化のためには、工事期の対応や維持管理の体制づくりを含む様々な課題があります。ここでは、グラウンドデザインを決定する現在の時期に検討すべきことに絞ってそのフレームワークを提案します。

(1) 施設面

一貫校における芝生の適正管理のために、施設面において以下のような配慮が求められます

- 用具倉庫：芝生化面積にもよりますが、和泉GPでは現在、和泉小学校に設置されているものがミニマムサイズであると考えます。保管するものを精査した上で適切なサイズの倉庫を選択すること、芝生のレイアウトをと合わせて配置場所を検討することが重要と考えます
- 統合的な配置・道線の検討：芝生の維持管理に必要な様々な道具を他の学校備品と合わせて適切に配置することが重要。たとえば、現在の和泉小学校では砂のストックヤード、運搬用のネコ車、シャベルなどがばらばらな場所に配置されているため、補植作業時の使い勝手がいまひとつよくありません
- スプリンクラー、散水施設、養生シート：芝生の維持管理に欠かせないこれらの施設や備品の保管場所についても基本設計に織り込んでおくことが重要

(2) 芝生レイアウトの検討ステップ

和泉小学校では当初より全面芝生化にこだわり、それを維持してきました。一貫校における芝生化もできるだけそれに近い形で実現することを希望しますが、中学生の踏圧ならびに部活などでの使用パターンを鑑みると必ずしもそれがベストではないとも考えます。

最適なレイアウトを実現するために、以下のようなステップを踏んで検討を進めることを提案します。

① 想定される使用パターンの洗い出し

まず、一貫校における校庭の使用パターンを広範に想定します。たとえば、芝生上での実施に困難が伴う野球、テニス、徒競走、走り幅跳びなどの競技や芝生への負担が大きい綱引き、大縄跳びなどの種目との共存をどのように図るか、災害時設備を兼ねた屋外のかまど・炬の設置は不要かなど。また、地域団体での使用パターンについても理解をしておく必要があります。

② 校庭以外の施設との連携

仮に新泉小跡地に一定の非芝生グラウンドが確保できると、小中一貫校の芝生化設計の自由度は飛躍的に向上すると思われます。また、養生時の運動場の確保のための屋上部分の活用など校庭以外の施設と連携を踏まえた検討が必要であると思います。

② 複数レイアウト案の策定とメリット・デメリットの想定

上記を踏まえて3つ程度のレイアウト案を策定し、それぞれのメリット・デメリットを想定する手法を提案します。このステップにより、芝生化について網羅的かつ現実的に検討を進めることが可能となり、最適な案に近づくことができると考えます。

(3) 中学生における校庭芝生

和泉小学校での経験を通じて、小学校における芝生の利用については様々な知見が蓄積できている一方、中学校における校庭芝生化については経験も参考にできる事例も少なく、あり方を考えるにあたってはじゅうぶんな検証と想像力が求められます。現時点から意見聴取や研究に取り組むことで、前述のステップの中に成果を織り込み、設計に反映させることが望ましいと考えます。

和泉GPについて

和泉GPは和泉小学校の芝生化と時を同じくして発足したボランティア団体です。子どもたちと校庭芝生を守り育てることを主な目的として活動しており、和泉小学校の保護者や先生方、地域の人たちや校庭利用団体などで構成されています。春から秋の間は養生期間を除いて毎週土曜日に芝刈り・補植などの作業を行っているほか、広報活動やイベントの企画・運営を行っています。昨年3月にはこれまでの活動をまとめた「芝生でいこう」(悠雲舎刊)を発刊しました。

(HPアドレス：<http://izumi-gp.jp/>)

以 上